

松本看板学会の活動に対して

特別賞受賞理由

松本看板学会の活動は、松本市が2013年度に実施した景観講座を契機として始まった。以降は「裏町看板学会」～「松本看板学会」と変遷しつつも、一貫して看板をテーマとした活動を市民主体型で行って来た。飲み屋街の看板の気持ちになって物語を創作する発表会など活動は独創的だ。市内の看板を取材、店主の想いを紹介する「看板物語(『signs』に連載)」は、看板の魅力を改めて認識させてくれる秀作である。サインの専門家ではないからこそそのユニークな観点、サインの専門家でもなかなか達成できない程の充実度は高く評価される。看板観察のワークショップを展開している屋外広告物関係者にも、参考になる取り組みと評価し特別賞とした。

このたびは、私たち松本看板学会の活動に対しSDA特別賞という素晴らしい評価を賜りましたこと、驚きともに光榮に存じています。

松本看板学会の活動は2016年、かつての松本を代表する花街であり歓楽街としては寂れてしまった裏町における景観講座がきっかけでした。寂れた歓楽街に残る多数の看板を切り口にまちを考えるのも面白いと現・学会長の長谷川繁幸氏、デザイナーの高田美香氏、松本市都市デザイン担当、公民館職員と講座内容を議論する中で、遊び心で裏町看板学会を自称し、看板を見つめ、看板を読み解き、看板を表現するという看板学講座は始まりました。

毎年続けている講座では、掲げられる看板そのものである狭義の看板だけでなく、建物や設え全体から感じる看板的表徴という広義の看板という、「狭義と広義の看板」を意識することで、街の景観や都市デザインにつながるよう工夫し、学会として実際に街中の看板デザインにも関わらせて頂きました。また、日広連の情報誌signsに松本の「看板物語」を連載させていただいていることに刺激を頂き、2020年の講座では、店主の想いやまちの文化を伝え、誰もが身近に感じてもらえる景観であるという看板の大きな魅力を参加者が課題として描き出してくれた記事をまとめた「私の看板物語」を出版することができました。今回の受賞をきっかけに、今後さらに看板やサインを切り口とした景観形成や松本の文化の掘り起こしや発展にさらに努力したいと思っております。

松本看板学講座コーディネーター 倉澤 聡



私の看板物語



昼も夜も看板ハンティング



看板巡検



ナワテ若返りの水の看板



看板妄想ワークショップ



看板採取



鯛萬の井戸の案内看板